

# 教会だより

カトリック浄水通教会からのお知らせ



カトリック

浄水通教会

Catholic Josuidori Church

「待降節を迎えるにあたって」

主任司祭 ヨセフ 牧山勝美

日本には各地で祭が毎年行われますが、日本人は祭をおして過去に行われたことを記念し、自分たちが先達と結ばれていることを確認します。

会社創立50周年記念では、会社の歴史と共に創業の精神を理解させ、一致・協力していくように鼓舞します。日本人にとって8月15日は「終戦記念日」で、戦争の惨禍を思い、戦禍で散っていった人たちの冥福を祈ると共に、平和への決意を新たにします。

このような祭とか儀式にはそれを説明する言葉、動作やしるしなどがあります。祭や儀式に込められた意味、内容を言葉と言葉以外のしるしを使って表現するのです。

カトリック教会では典礼が行われていますが、「典礼」という言葉の語源はギリシア語で、「公共の仕事」、「公衆が行う奉仕」を意味していました。「典礼」は、「神が神の民に恵みをもたらす」、「神の民が神の業に奉仕する」、あるいは、「参与する」ことを意味しています。

神の救いの業は歴史の中で行われましたが、時間、場所、民族、時代を超えていますから、教会は一年をとおして神の救いの業を記念す

ると共にそれにあずかるように招きます。季節ごとに言えば、待降節、降誕節、四旬節、復活節、年間の主日です。

待降節はお出でになるイエスを迎える準備をする季節ですが、待降節の典礼には三つのことが含まれています。一つはイエスの誕生を心を整えて待つことで、次は、自分とイエスの最終的な出会いである死についてそれなりの備えをしていくこと。最後は、何時であるかわかりませんが、イエスが神としての権能をもって救いの完成のために再臨なさることと心を留めることです。

わたしたちは間近に控えたイエスの誕生を考えがちですが、今、述べて三つのことを忘れないようにしたいものです。いつもとおりの待降節、クリスマスではなく、新たな気持ちをもってクリスマスに備えたいものです。



ヨセフ 牧山 勝美

司祭に叙階されて52年。「主よ、お言葉ですから、網を降ろしてみよう」をモットーに司祭生活を送る。2019年より浄水通教会の主任司祭へ就任。

● 本田哲朗神父様来訪

11月27日(日)、大阪釜ヶ崎の日雇い労働者支援施設「ふるさとの家」を軸に活動される、本田哲朗神父様(フランシスコ会)をお迎えし、御御堂で講話が行われました。

話は「自分を愛したことがありますか?」という問いから始まりました。「自分を愛した経験がないのに、隣人を愛せるのでしょうか。自分を大切にすることはあっても、愛したことはないのではないのでしょうか」と。そして、話はやがて聖書の中の「アガペー」という言葉へ。アガペーというのは本来「大切にすること」という意味。聖書が日本で最初に翻訳されたとき(秀吉の時代)は「御大切」だったそうです。それが後に明治時代で「愛」と訳されてしまい、主旨が分かりづらくなってしまったのだそうです。

そして、誰に対しても「愛さなければ駄目だ」という認識が広がりました。「あなたを愛しています」と見ず知らずの人に言われても、「あなたには愛されたくない」ということもある。と、釜ヶ崎での日常での出来事も交えながら、最後に視座の転換の大切さの話へ。イエス様が教えてくれた一番大切なこと「私があるあなた方を大切にしよう、あなたたちも互いに大切にしよう」と述べられ、話を締め括られました。



● こよみ

- 1月8日(日) 主の公現
- 1月9日(月・祝) 主の洗礼
- 2月2日(木) 主の奉獻
- 2月22日(水) 灰の水曜日
- 4月2日(日) 受難の主日
- 4月9日(日) 復活の主日
- 5月21日(日) 主の昇天
- 5月28日(日) 聖霊降臨の主日
- 6月4日(日) 三位一体の主日
- 6月11日(日) キリストの聖体
- 8月15日(火) 聖母の被昇天
- 9月14日(木) 十字架称賛
- 11月1日(水) 諸聖人
- 11月2日(木) 死者の日
- 11月9日(木) ラテラン教会の献堂
- 11月26日(日) 王であるキリスト

● 安置室申込受付中

亡くなった親族と共に御ミサに与れる、また自分が亡くなった後も、ずっと浄水通教会で安心して眠る事が出来るようにと作られた安置室が、御堂の中に設置されています。大小の奉安壇と共同合葬柩は浄水通教会所属の信徒のみ利用可能となっていますので、詳しくは安置室管理委員会までお声掛けください。



● ミサに参加される際は、感染対策へのご協力をお願いいたします。

